ベアードバクにおけるターゲットトレーニング

〇熊谷まい、森田菜摘
横浜市立金沢動物園

当園では、ベアードバク（愛称：アグア、雄、20 歳）の飼育管理において、採血等の日常管理の一部を直接飼育で行っている。しかし、より安全なに飼育管理を目指して、ターゲットトレーニングを取り入れた間接飼育で定期的な採血の実施を目指している。

該当個体は最初から人にはよく慣れていたため、2015 年 4 月にまずは、柵越しに手差しで給餌をすることから始めた。翌月からターゲット棒とクリッカーを用いて、棒の先に鼻先をつける「ハナ」という指示とその状態で維持する「マテ」という指示を 1 か月半程かけて教えた。開始当初はターゲット棒を噛むような行動も見られたが、毎日トレーニングを行うに従って、個体自らが意欲的にこちらの要求にこたえようと工夫する様子が見受けられた。次に、ターゲットに肩の辺りを付けて柵と平行に身体を寄せる「カラダ」という指示を 6 月から 8 月にかけて習得した。9 月には、V 字に曲げたワイヤーの先端に合わせて口を開く「口あけて」の練習を始め、現在はこれら全ての動きを習得している。

また、2016 年 4 月には既存の柵を改修し、個体が肢先を出したり、担当者が手を出し入れして、安全に個体に触れることのできる窓を設置した。今後は、その窓を活用して実際の採血や蹄の手入れを始める予定だ。